

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

明和工業は炭化をはじめとした各種の環境技術により、国連総会で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の達成に寄与します。



| 炭化物の節水効果を活かした気候変動適応

炭は多孔質であるため、土壤改良材として農地の保水性を高める効果があります。炭の投入は、天水に頼った農業を安定させるための大きな手段となります。



| クリーンな燃料による大気汚染の緩和

モンゴルや中国で深刻な健康問題を引き起こしている大気汚染。大きな原因である「褐炭」を煙の出ない石炭に改質することで、よりクリーンな熱源を提供し、PM2.5等の低減に貢献します。



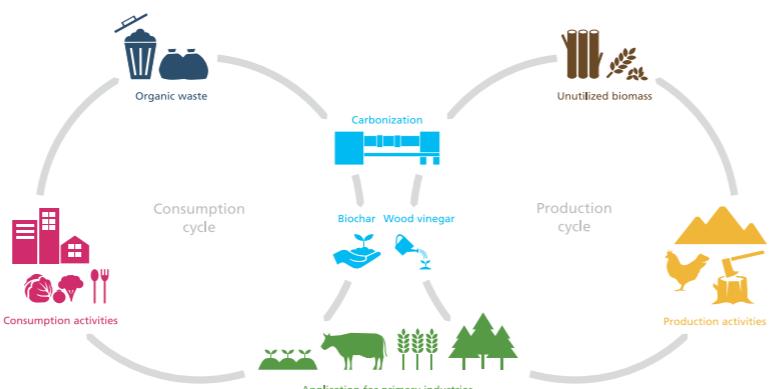
| 窒素循環の改善

水草の異常繁茂は、アフリカやアジアの水産業や水上交通に壊滅的な被害を与えています。この水草を炭化し農地に撒くことで、陸地からの窒素やリン酸流入が軽減され、問題が緩和されます。

資源循環型社会の実現へ

明和工業は、炭化装置とその生産物の利活用により、真の資源循環型社会の実現に貢献します。

毎日食べ、体の一部となるお米や野菜。化学物質に頼らない、より自然な農法で作られた食料へのニーズは国や地域を問わず高まってきています。明和工業では自社が開発した炭化装置から生産される炭化物、木酢液の農業利用について10年以上の実績があります。自社の畑や研究機関による徹底した生育調査や品質・味覚試験、成分分析によって、安心・安全な野菜、また、それを育てる農業資材を提供いたします。そのうちの一つが「肥炭粉」です。



地産地消の必需品 肥炭粉 びったんこ

Premium Natural Brand

Ishikawa Ecodesign Award 2011

食肉センターの
汚泥が原料だから、リン・
カリウム・鉄分などが豊富!

炭だから、
保水性、透水性が抜群!
土壤改良材としても最適!

奇跡のリンゴで知られる
木村秋則さんも絶賛!
自然栽培との相性も抜群!

左半分は肥炭粉を使用し栽培



会社概要 Company Profile

商 号 明和工業株式会社 (Meiwa Co., Ltd.)
創 壽 1964年3月
会社設立 1965年2月
資 本 金 65百万円 (2022年6月)
従 業 員 数 38人 (2022年10月)
代 表 者 代表取締役 上野孝正
所 在 地 〒920-0211 石川県金沢市湊三丁目8番地1
TEL. 076-239-0118
FAX. 076-238-0866
E-mail info@meiwa-ind.co.jp
<https://www.meiwa-ind.co.jp>

登 録 ISO9001 認証 MSA-QS-4363
ISO14001 認証 MSA-ES-1545

営 業 所 熊本営業所
宮崎営業所
沖縄営業所

出資企業 熊本／株式会社晴喜製作所

福祉厚生 イントレクチュアルセンター

お取引先 北國銀行 本店営業部
みずほ銀行 金沢支店
三井住友銀行 金沢支店

主なお取引先(数種略、順不同)
全国農業協同組合連合会／経済農業協同連合会／農業協同組合／官公庁／教育機関／農業施設製造メーカー／農林水産関連メーカー／環境プラント機器製造メーカー



会社案内

COMPANY PROFILE



自然との 調和を創造する。



代表あいさつ Foreword

明和工業は1964年創業以来、農業、新エネルギー、環境分野において、持続的発展可能な社会の実現を目指してきました。今後も循環型社会の形成に向け、持続的発展可能な社会の実現を目指していくとともに、常に、市場ニーズを意識して、お客様に喜ばれる安全・安心な製品を提供していきたいと考えています。メーカーならではの創意工夫とたゆまぬ努力で事業活動をしながら、初心を忘れず、基本に忠実な無駄のない仕事、規律正しい仕事を行っています。

研究・受託サービス Research and Consignment Service

明和工業は小さい会社ながら、日本トップクラスの研究機関や省庁との連携を積極的に行ってています。多種多様なニーズに応えられるよう、本社実験棟には試験・実演装置を常設し、絶えず研究開発を行っています。ここから新たな事業の芽となる、技術・研究シーズを生み出します。



[近年の関連トピック]

- 最先端凍結濃縮技術である界面前進凍結濃縮技術を実現・製品化(新規事業化)

主な産学官連携事業

炭のガス化発電(東京大学／東京工業大学)、急速熱分解(東京大学／北陸先端科学技術大学院大学／産業技術総合研究所)、メタン発酵(金沢大学／九州大学)、界面前進凍結濃縮(石川県立大学／石川県工業試験場／石川県農業総合研究センター)、セシウム除染(東京大学／東北大)、バイオオイル・木酢液(鹿児島大学)、他多数

[近年の関連トピック]

- 最先端凍結濃縮技術である界面前進凍結濃縮技術を実現・製品化(新規事業化)

農業関連事業 Agriculture



主な関連装置

- 湿式集塵装置
- ロータリー式乾式集塵装置
- バグフィルター
- 廃水処理装置
- 粉殻膨脹軟化装置
- 穀物等貯蔵乾燥システム(貯留 bin)
- 粉殻炭化設備など

[近年の関連トピック]

- 造船用プラスト処理集塵装置の成約
- 製造業やリサイクル事業分野での集塵装置の販売展開
- 低ランニングコスト型集塵装置の開発に着手、ライセンスへの1号機導入
- 乾式集塵装置(MRF)の新モデル製作に着手



バイオマス利活用事業 Biomass Utilization

明和工業は20年以上にわたり、バイオマス分野で研究・開発を行ってきました。その結果、有機ごみを投入し、炭として再資源化することが可能になる炭化装置、家畜排せつ物や食品残渣から熱やエネルギーを生み出すメタン発酵システム、木質バイオマスから熱と電気を生み出すバイオマスガス発電装置、などバイオマス利活用分野において数々のプラントを開発してきました。「粉殻や工場から出る汚泥を炭化・再利用する」、「食品工場残渣をメタン発酵し、その熱・エネルギーを工場で再利用する」、「地域の間伐材由來の木質チップから熱・電気を作り、周辺の温浴施設で再利用する」など、従来厄介者であったバイオマス残渣を有効利用するソリューションを提案いたします。



主な処理原料

農業残渣、食品残渣、畜糞(牛糞・豚糞・鶏糞)、間伐材、粉殻、下水汚泥、剪定枝、紙おむつ、褐炭など多数



★ プロジェクト進行中／実施済み

● 現地調査または
研修員受け入れ経験あり

● 引き合い対応中

世界中から求められる、 明和工業のバイオマス利活用技術。

[近年の海外関連トピック]

- ベトナムにてメタン発酵装置1台、炭化装置2台を納入
- インドにて炭化装置2台を納入
- ケニア・ナイロビで炭化装置をTICAD VIIに出展
- ケニアにおけるJICA案件化調査に採択
(現地にて炭化装置運転実績あり)
- ポツワナ、ナイジェリア、ケニア等の閣僚級と会談
- ABEイニシアティブ学生(累計46人)をインターとして受け入れ経験あり
- 中国で汚泥炭化装置と豚の病死体炭化装置を納入
- JICA沖縄の研修の一環で10カ国から研修員を受け入れ